

特集

# 北九州市総合防災訓練およびDMOC 情報伝達訓練・八幡東区防災訓練について

災害医療研修センター (DMEC) 所長 伊藤 重彦  
北九州地域統括DMAT



## 1. 新しい北九州市医師会医療救護計画策定の必要性

北九州市医師会医療救護計画最新版は2009年2月発行です。計画内容に派遣医療チームの活動や指揮系統に関しては詳細な記述がありますが、亜急性期のJMAT (Japan Medical Association Team) や一般会員の役割・活動に関する具体的記述はありません。また、薬剤師会、歯科医師会、看護協会など多職種との連携に関する記述もありません。また、北九州市地域防災計画との整合性もとれなくなってきていました。

そこで、2014年に保健福祉局から北九州市医師会へ医療救護計画の見直しが依頼され、北九州市医師会専務理事の穴井堅能先生を委員長とする医療救護計画等検討作業部会が設置されました。新医療救護計画 (新計画) は2015年度中の策定を目指しています。

## 2. 災害医療作戦指令センター (DMOC) について

新計画の目玉は、1. 災害医療作戦指令センター (DMOC ; Disaster Medical Operation Center) 設置、2. 現場指揮システム (ICS ; Incident Command System) 導入、3. 災害医療支援に避難所支援を明記したことです。従来の支援者は、災害規模と種類により「災害拠点病院 ; 福岡県DMAT (Disaster Medical Assistance Team) 指定施設等を指す」、「二次医療機関 ; 機能別受入れ病院を指す」「一般の医師会員」の3つに分かれていますが、それぞれのグループ間の情報共有手段や縦横の指揮系統は曖昧でした。

新計画では、北九州市災害対策本部の下に、指揮系統・情報管理の一元化と被災状況に合わせた医療支援提供を行えるように、市立八幡病院内に

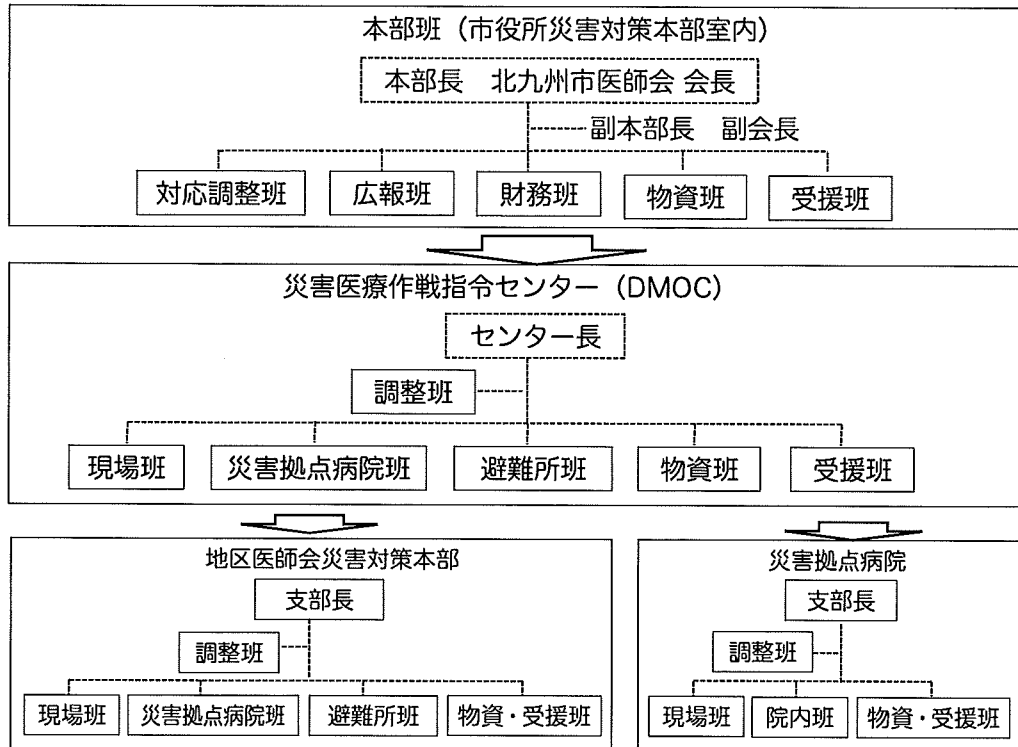
DMOCを設置します。指揮・命令系はより分りやすくなり、市医師会災害対策本部の本部長 (会長) →DMOCセンター長→支部 (地区医師会、薬剤師会、看護協会、災害拠点病院) の一方向指令システムです。行政 (消防局、保健福祉局、区役所等) は、DMOC内の各班に担当が入ります。また、ICS導入により、DMOC本部から支部に至るまで同じ名称の担当部署を配置し、それぞれ担当する役割を明確にし、情報が重複しないようにします。現場班 (負傷者数・DMAT派遣情報)、避難所班 (避難所へのJMAT派遣・支援情報)、災害拠点病院班 (DMAT派遣、後方支援情報)、物資・受援班 (医療資機材の調達、外部支援の要請情報) それぞれの班において、DMOCと支部の担当者の間は、指揮命令を直列に繋ぎます。具体的には、DMOC避難所班とは地区医師会避難所班の通信、DMOC現場班と現場DMAT、消防署との通信などが一例です。

このシステムにより、災害急性期の混乱時期に情報が交錯することなく、命令に対する結果・成果、発信に対する返信を各班が確実に把握できるようになります。調整班はトータルした情報を分析し、円滑に処理できるよう調整を行います。図1に、北九州市医師会の災害対策本部とDMOC、地区医師会 (支部) の連携図を示します。全国でも類を見ない新しい医療救護計画は、平成28年4月に運用開始予定です。

## 3. DMOCと八幡東区役所との合同訓練について

新計画策定にあたり、2015年10月19日 (月) と10月27日 (火) に机上シミュレーション訓練を行いました。そして、11月21日 (土) に行ったDMOCと八幡東区役所との合同訓練で、新計画の実証検証

図1. 災害医療作戦指令センター（DMOC）と関係機関の連携



を行いました。当日のDMOCには、北九州市医師会、八幡医師会、北九州市薬剤師会、福岡県看護協会、行政として保健福祉局、消防局、危機管理室、病院局・八幡病院などから39人が参加しました。市医師会は、JMATとして穴井専務理事、藤本理事、DMOCに高嶋理事、福地理事が参加されました。また、八幡医師会からは原賀理事と事務局スタッフ、市薬剤師会から星野理事、病院局から吉田病院局長が参加されました。また、東京から日本防火・危機管理促進協会の有賀雄一郎氏が視察に來られました。一方、八幡東区役所訓練には、地域住民、区役所職員、八幡東消防署に加えて八幡病院DMATと市医師会JMATが参加しました。

訓練は8:30のDMOC立ち上げ訓練に始まり、9:00からの八幡東区役所の土砂災害訓練、そして10:00からの区役所とDMOCによる避難所支援訓練の3部構成でした。交信例を表1（12ページ参照）に示します。写真1～4（13ページ参照）は、八幡病院大会議室で行われたDMOC訓練活動の様子です。

今年5月1～2日に、北九州市でサミットのエネルギー大臣会合が開催されます。DMOCとしては、大事故災害、テロに備えて除染テントを設営し、拠点病院の協力を得て情報通信態勢を整える予定です。

表 1. DMOC・〇〇区役所との通信訓練 (DMAT/JMAT 出動 version)

(災害発生と DMOC 設置宣言)

- DMOC→地区医師会・薬剤師会・看護協会、災害拠点病院、行政機関へ  
「土砂災害発生。とくに〇〇地区の被害甚大の様様。市立病院内に DMOC が設置されました」「〇〇地区医師会は災害対策本部を立ち上げ、医療支援の準備をお願いします」「通知を確認したら、DMOC へ返信をお願いします」

(災害現場通信・DMAT 派遣)

- 〇〇消防現地指揮所→DMOC (現場班)  
「〇〇の災害現場指揮所です。土砂災害で、救助隊による約〇名の傷病者を救出中-DMAT の派遣を要請します」
- DMOC 現場班→災害拠点病院班→災害拠点病院  
「〇〇地域災害拠点病院は、後方支援 (負傷者の収容準備) をお願いします。受入れ可能な傷病別ベッド数を報告してください。EMIS 入力をお願いします。〇〇病院 DMAT は、〇〇の災害現場に向かい現地本部の指示に従ってください。到着後現場の傷病者情報を DMOC へ報告してください」

(避難所支援通信・JMAT 派遣)

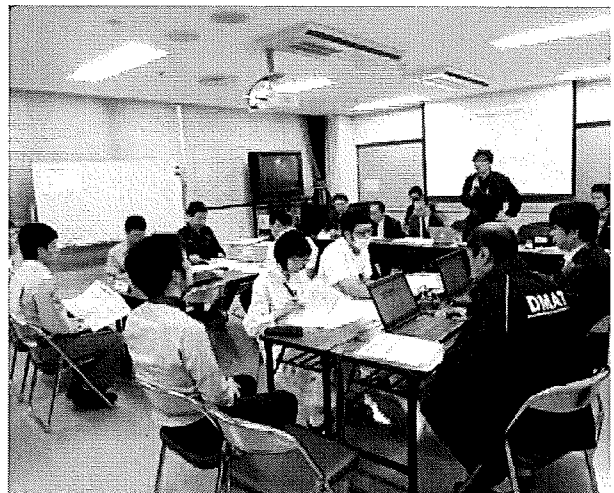
- 〇〇区役所 (総務) →DMOC (現場班)  
「〇〇区役所総務です。土砂災害により、〇〇地域約〇人の避難勧告を行いました。現在、〇〇市民センターと〇〇小学校に避難所開設しました。現地より体調不良の市民の報告が来ています。医療チームの派遣をお願いします」
- DMOC 避難所班→地区医師会 (薬剤師会)  
「地区医師会 (薬剤師会) 会員に対し、〇〇地区医師会の災害対策本部への参集を指示しました」「〇〇医師会災害対策本部は、参集した医師会、薬剤師会、看護協会メンバーから JMAT 編成をお願いします」
- DMOC 避難所班→医師会 (薬剤師会) 会員へ (一斉メールの確認)  
「市立八幡病院内に DMOC が設置された。以下の質問に回答を入力してください」
  - (1) 自施設の被害 あり なし
  - (2) 所属医師会への参集 可 不可
- 〇〇地区医師会 (避難所班) →〇〇区役所  
「〇〇医師をリーダーとする JMAT-1 (3名) が〇〇センター、JMAT 2 が〇〇小学校へ出動しました。現地の担当者の名前を教えてください」
- 〇〇地区医師会 (避難所班) →DMOC (避難所班)  
「JMAT 2 チームを〇〇センター、JMAT 2 が〇〇小学校へ派遣終了。避難所状況は、追って報告します」



調整班

訓練開始

DMOCの  
合同訓練の様子



訓練参加の皆さん